

■ラオス：ナム・トゥン2発電所、商業運開時期が2010年第一四半期にずれ込む見通し

運用開始すればラオス最大の発電所となるナム・トゥン2 (Nam Theun 2) 水力発電所 (出力 107 万 kW) の運用開始時期がずれ込む見通しとなった。同発電所の IPP である NTPC (Nam Thuen2 Power Corporation) 社がこのほど明らかにしたところでは、タービンの運転効率が計画値を下回る等の技術的問題により、当初予定していた 2009 年中の商業運転開始が、2010 年の第一四半期にずれ込む。同発電所は、NPTC 社とラオス政府間の BOT 契約に基づき、稼動後 25 年間、発電電力の大部分をタイに輸出し、契約終了後は無償でラオス政府に譲渡されることになっている。タイへの輸出量は総出力の 93%に相当する年間 99.5 万 kW を計画しており、ラオス国内には 7.5 万 kW が供給される予定である。なお NTPC 社の出資比率は、フランスの EDF35%、ラオス政府 25%、タイ民間発電会社のエレクトリシティー・ジェネレーティング社 25%、タイ最大手ゼネコンのイタリアン・タイ・ディベロプメント社 15%となっている。